



輝いている人

スポーツの楽しさを伝え、
笑顔をもっと多くしたい

開発途上国の経済開発や福祉の向上を支援する青年海外協力隊。派遣先の国の人々と生活を共にしながら、国づくりの手助けをしている。その一員として、9月24日から2年間、アフリカのニジェールで体育の教師としてスポーツの指導や普及にあたっているのが、西野舞子さんだ。

大学時代に訪ねたカンボジアで、バレーボールを楽しむ自分たちをうらやまように見ていた現地の人々を見た。「スポーツの楽しさを伝え、交流ができれば」。この体験が、彼女を青年海外協力隊への道に進ませた。

小学校と中学校ではバスケットボール、高校と大学時代にはサッカーと、スポーツ大好きな西野さん。派遣先の中学校では朝と夕方に2時間ずつ、約60人を相手に体育の授業を行う。ニジェールでは中学校で初めて体育を学ぶので、内容は日本の小学校の中・高学年の内容になるそうだ。「基本から根気よく指導ですね」と、白

い歯がこぼれた。

ニジェールは国土の3分の2が砂漠で、世界でも最貧国の一つ。派遣先がニジェールに決まったとき、過酷な任務だとも聞き不安もあったそうだが、事前訓練で現地の公用語のフランス語にも自信がもて、「今は、希望と楽しみの方が大きい」と言う。

地域のスポーツ振興も重要な任務の一つ。いっしょに体を動かし、スポーツにふれてもらうと考える西野さん。バレーボールを楽しむ人は多いそうだが、「紙を丸めたものでサッカーをするなど、恵まれた環境にはないんです」と。そして、「地域の運動会やバレーボール大会を企画したい」と、意気込んでいる。

帰国後は、青年海外協力隊で経験したことを生かして中学校の体育教師になりたいという。「スポーツを通して、笑顔をもっと多くしたい、そのきっかけを応援できたらいいですね」と、目を輝かせた。

青年海外協力隊としてニジェールでスポーツの指導をする

西野舞子さん(泉)

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。

雪舟の里 総社 墨彩画公募展 2008

墨 彩 画 募 集 し ま す



作品内容 墨彩画で未発表の作品(平面作品)。テーマは自由

応募資格 応募時に18歳以上の人。経験や国籍は問いません

作品規格 ①作品本体がF100号以内 ②仮表装か仮縁(アルミ・スチール・木。幅7cm以内)をしていること。ガラスやアクリルは付けない。軸装可。制作意図を妨げる場合は縁なしでもかまいません

応募点数 1人2点以内

出品料 1点の場合5000円、2点の場合8000円

応募方法 所定の出品票の提出と出品料の振り込みを平成20年5月30日(金)までに行う

応募作品の搬入日時と場所 [業者による委託搬入の場合] 平成20年6月19日(木)・20日(金)(必着)、[出品者が直接搬入する場合] 平成20年6月21日(土)・22日(日)(必着)。いずれも午前9時から午後4時まで。送り先・搬入場所は総合文化センター(市民会館)。ただし、搬入に必要な経費は、出品者の負担とします

賞 雪舟大賞(1点)300万円、審査員長賞[平山郁夫賞](1点)200万

円、特選(3点)100万円、奨励賞(5点)20万円、入選(45点)記念品

※雪舟大賞、審査員長賞、特選は買い上げとなります。買い上げ作品の著作権は主催者に帰属します。

入選作品の展示予定 [総社会場] 国民宿舎サンロード吉備路(平成20年9月)、[倉敷会場] 加計美術館(平成20年9月～10月)、[岡山会場] 天満屋岡山店6階葦川会館(平成20年10月)

出品票の請求・提出先と問い合わせ 市文化振興財団(☎☎3491、〒719-1131 中央三丁目1番地102、総合文化センター内)

雪舟

総社市赤浜に生まれ、幼年期は宝福寺で修行した。中国に渡り、絵を学び、水墨画を大成した。

雪舟の里 総社
墨彩画公募展

墨彩画とは、墨に彩を加えて描く絵のこと。墨彩画公募展は、画聖・雪舟を顕彰して1996年に始まり、今回で7回目を数える。毎回400点近い作品が全国から寄せられる。



前回の雪舟大賞。山本真一さん(岐阜県)の作品「黄昏」



●審査員

[審査員長] 平山郁夫(日本美術院理事長)

[審査員] 上村 淳之(日本芸術院会員)、神野力(元ノートルダム清心女子大学教授)、竹内浩一(日

本画家)、中野嘉之(多摩美術大学教授)、福井爽人(東京芸術大学名誉教授)、守安収(岡山県立美術館参与(学芸課長))